

福岡県



森林・山村多面的機能發揮対策

活動事例集



目

次

事業概要	2
活動地域	3
北九州農産加工組合有限会社	北九州市 4
里山復帰	行橋市 6
金剛山もとり保全協議会	直方市 8
里山を守る上田会	みやこ町 10
大坂竹林等環境整備組合	赤村 12
赤坂竹林整備組合	福岡市 14
ながいと鎮竹林	糸島市 16
竹やぶ掃除会	糸島市 18
倉永山林保全の会	大牟田市 20
諏訪神社の森を守る会	大牟田市 22

事業概要

国土の7割が森林である私たち日本人にとって、森林は古くから私たちの経済活動に深く結びついています。私たちは森林の恩恵を受け衣食住を整え、林業という産業、文化を築き上げてきました。

森林は動物のすみかであり、水源であり、木材や林産物の供給源です。そのなかでも里山林は、居住地近くに広がり、薪炭用材の伐採、落葉の採取等を通じて地域住民に継続的に利用されることにより、維持・管理されてきた森林です。

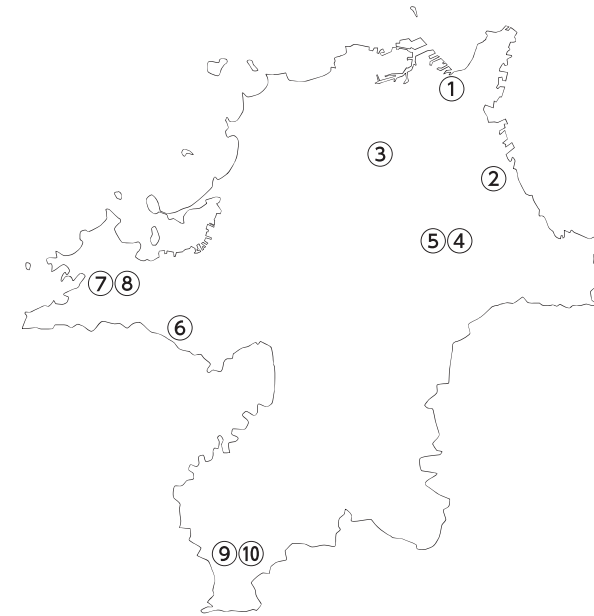
しかし、このような里山林は、昭和30年代の石油・ガスなどの化石燃料の普及、化学肥料の普及等により地域住民との関係が希薄になり、侵入竹などによる荒廃が進んでおり、森林の有する多面的機能の発揮が難しくなっています。

里山林の保全については、林業における森林整備はもちろんのこと、地域住民、森林所有者等が行う継続的な活動が重要な役割を担っています。

そこで、本事業では、地域住民、森林所有者等が協力して行う、里山林の保全管理や資源を利用するための活動に対し支援を行っています。



活動地域



番号	活動地	活動組織名	主な活動タイプ		
			里山	竹林	資源
①	北九州市	北九州農産加工組合有限会社		○	
②	行橋市	里山復帰	○	○	
③	直方市	金剛山もととり保全協議会	○	○	○
④	みやこ町	里山を守る上田会	○	○	
⑤	赤村	大坂竹林等環境整備組合		○	○
⑥	福岡市	赤坂竹林整備組合		○	○
⑦	糸島市	ながいと鎮竹林		○	
⑧	糸島市	竹やぶ掃除会	○	○	
⑨	大牟田市	倉永山林保全の会	○	○	○
⑩	大牟田市	諏訪神社の森を守る会	○	○	○

行橋市	事業期間 令和元年度～	活動タイプ		
里山復帰	★	里山	竹林	資源
		★	★	

取組の背景・経緯

元々赤松林であった山林が、山火事や松くい虫によりほぼ全滅になり、その後も放置され、侵入竹が繁茂しています。生活道路へも枯れた竹が倒れ掛かるなど、放置竹林の整備は喫緊の課題です。しかし、山林の所有者は企業や市外在住者、森林に関係のない職業に従事するなど、実際に課題へ対処することが難しい状況です。里山の適切な管理により、これらの課題に対応しようと整備を始めました。

活動に参加した仲間（有志）・その関係性

定年退職者を主に、地元市民5名、北九州市、飯塚市、山口県下関市民の各1名が組織のメンバーです。北九州のボランティア組織（小倉城竹あかり：構成員100名、やるっちゃ北九州構成員50名など）とも連携し、活動に取り組んでいます。



取組とその成果

里山林保全では、山林を「樺の森」、「山桜の森」、「ふれあいの里山」、「アスレチックの森」などにエリア分けをし、用途に合わせた伐採や植樹を行いました。放置竹林は竹を根絶した後、果樹などを植林しています。整備を通じ、屋間でも暗かった山の中に陽が差し込み、近所・近郷の子供たちが遊びに来るようになりました。



整備前



整備後

伐採した竹で、「小倉城竹あかり」の灯籠の一部として原料調達から加工までの作業を担いました。多くのボランティアの方々も作業に参加、体験を通じ放置竹林と、そこから派生する山の侵食などの課題に興味をもっていただくよう取り組んでいます。他にもタケノコほりや、斧を使った薪割り

体験、炭づくりなど非日常体験をイベントとして実施し、里山へ興味を向けるきっかけづくりに取り組んでいます。



小倉城竹あかりの灯籠



斧を使った薪割り体験



収穫体験

地域コミュニティへの貢献

整備前は真っ暗で人を寄せ付けなかった里山でしたが、今では近所の人が犬の散歩などでふらっと訪れ、散歩ができるような場所になりました。また、周囲から見えにくい場所が粗大ごみの不法投棄をされる里山でしたが、整備後はごみの不法投棄がなくなりました。

里山がある場所は行橋市ですが、北九州市や香春町など、近隣市町の方もそれぞれが来られるときに整備に来られます。また、里山復帰の活動を SNS などでも知り、見学や遊び、現地での作業に来られる遠方の方もいらっしゃいます。

今後の展望

山林の整備がある程度進んだので、今後は整備に伴い出てきた伐採木や、里山そのものの利用について考えていきます。

伐採木の利用としては、現在、伐り出した広葉樹（カシ、リョウブ、ツバキなど）を薪に加工し販売しています。今後は本格的に薪製造のインフラ（乾燥工程など）を整備するとともに、薪の販売路を拡大し、活動経費赤字の補填とする計画です。里山そのものの利用としては、整備に協力してくれている香春町の方と、森の小路マルシェを開催する計画です。

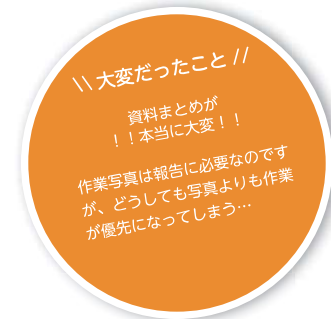
子どもたちの自然体験の場づくりを念頭に、今後もボランティア組織や大学など、さまざまな団体と協力しながら、これまで培ってきた里山整備のノウハウを生かし、地域の里山保全に努めていきたいと考えています。



出荷待ちの薪



林内の立看板



直方市	事業期間 平成 27 年度～平成 30 年度	活動タイプ		
金剛山もととり保全協議会	里山	竹林	資源	
	★	★	★	

取組の背景・経緯

活動の対象地は戦後、地元住民を中心とした開拓団により山林開拓が行われ、柿や梨、ミカン等の果実や杉苗等の出荷が行われていました。その活動は昭和40年代末まで続きましたが、時代の変遷とともに開拓された山野が放置されたままとなりました。近年、直方市産業団地が隣接して造られ、その際に市が当地も含めた地域を一括して買い戻し、実質市有地となりました。しかし、40 有余年放置された山野は、人々が分け入ることが出来ないほど竹や雑木が生い茂る荒廃した地域となってしまいました。



活動に参加した仲間（有志）・その関係性

保全活動の意義に賛同する者5名程からのスタートでしたが、徐々に構成員が増え、男女21名で活動しました。

取組とその成果

市との協定で12haの山林を保全しました。当初は、森林3.3ha、竹林3ha、侵入竹5.7haという状況でありました。密接した針葉樹で覆われた真っ暗な森は生き物の生育を許さず、獣害の要因ともなっていました。活動の4年目にはすべての地域に太陽を取り込むことができました。陽の射す里山には既にエビネ欄の自生や、ノスリ等猛禽類の生息が確認されています。

開かれた地は風水害に強い森作りを目指し、栗やクスギ・山桜、モミジ等の種を植えています。間伐材は木炭の原料とし、年3～4回のペースで木炭を製造しています。原料が間伐材なので良質な炭とは言えませんが、毎回300kg程度の収量があります。孟宗竹の竹炭も製造していますが、手間や切出し時期などを考えると常時とはいきません。



整備前



整備後



整備前



整備後

その他、椎茸ホダギ、薪製造、クスやサクラのチップ製造、雑木チップ堆肥作り等行っており、人伝で徐々に広まっているものの、販路の確保が新たな悩みとなります。

地域コミュニティへの貢献

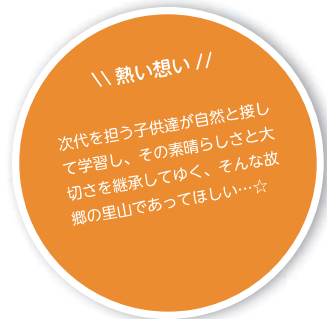
15年ほど前から、当活動区域の玄関口とも言える場所に、地域のメンバーの一人武内さん個人がコツコツと挿し木で育てた3,000株程のアジサイを、平成27年に初めて金剛山もととり保全協議会のあじさい園として一般に発信して公開しました。平成29年度の来園者は2万人を大きく上回り、コロナ禍であじさい祭を中止した令和2、3年度も例年と変わらず多くの人出がありました。どこにも行けず自然の中を歩きたいとの願望が強かったのでしょうか。来場された皆さんは「コロナ禍のルールを守りましょう」という注意事項を守ってくださいました。



アジサイの見頃が終わる7月からは草取り作業日を決め（週1土曜日）アジサイ周辺の手入れを続けています。公園内は道幅が狭く、車の離合に神経を使いましたが、直方市が今年度中に道の拡幅工事を実施することになりました。来年6月にまた美しいアジサイの花に出会えることを願って活動しています。

今後の展望

平成27年から6年間、多額の予算を投入したこの事業をこのまま放置し40年前と同じことを繰り返さないとの思いです。平成29年10月、この地域が直方市の風致公園として公示されましたが、その後風致公園の指定があったのみで予算が付くわけでもなく、私たちの想いだけが募りました。皆の汗と努力が元に戻ることはとても許せず、何とか…と考えましたが、1年間はほとんどボランティアで少し手を入れました。山林部に予算はつかず、本年も細々とやっています。市有地なので市の考え方を見守りながら、今後は数人の元氣印の人で維持していくしかありません。



みやこ町	事業期間 平成 26 年度～令和元年度	活動タイプ		
里山を守る上田会	里山	竹林	資源	
	★	★		

取組の背景・経緯

みやこ町勝山上田地区は県管理河川 2 本に挟まれ住宅地や基盤整備がされた美しい田園風景が広がる地域です。約 8 ha に及ぶ森林は、一部の区有林を除き数十年にわたり手入れがされておらず、里山の荒廃が進んでおり、特に竹林、侵入竹による里山の荒廃は著しく、イノシシすら通れないほどの荒れようでした。そこで地域住民が組織し、面的に里山整備を進めるに至りました。

活動に参加した仲間（有志）・その関係性

活動には、みやこ町勝山上田 1 の住民で上田 1 自治会の会員が中心となり、営農組合、消防団員も参加しました。作業は多いときで 20 人ほどが参加してくれました。もともと自治会では、区民による河川の草刈り、水路の清掃、支障木の撤去、子供会とコスモスの植え付けを行うなど、生活環境の整備に積極的に取り組んでいました。



取組とその成果

構成員で作業・人員・資金の計画についての話し合いや、安全性と作業効率を高めるため、進捗状況や問題点などの確認を適宜行いました。

メンバーの大半は森林整備に関わる経験の無い者だったため、安全講習として^{みやこ}京都林業研究グループの中川氏に依頼し、チェーンソー講習等を行いました。またチップper導入にあたっては、事前メーカー研修を徹底的に行い、安全作業に努めています。地区住民で行う活動では、けがをしないことが絶対条件です。安全な作業が安心と楽しさ、その後の成果につながるものと考えています。

作業にあたっては班分けし計画に基づき行いましたが、最初は作業手順に慣れておらず、思うように進まないこともありました。機材の整備により各段に作業効率が上がり、特にチップperの導入により間伐材の処理が進み、林内がきれいになりました。



チェーンソー講習



伐倒木竹処理のチップper

人工林では十分な間伐を行い、間伐材は地区で有効活用しています。里山林はさらに除伐を行い、栗・クヌギ・アケビ等を植栽しました。また町道の水田に係っていた支障木は除去し、環境整備に努めました。メインの里道脇にはモミジを植栽することで、近隣住民の散策コースとなるよう癒しの里山に育てる計画です。また竹林はさらなる除伐を行い、チップを生産し農家に提供しました。また本交付金事業終了後もスムーズに里山の維持管理がしやすいよう、作業道を敷設しました。



整備前の人工林



整備前の竹林



整備中の人工林



整備後の竹林

地域コミュニティへの貢献

森林作業はチームワークが大切です。共同作業を行うことで、ヨコの繋がりが強くなりました。交付金の活動終了後も、会として地域の要望（家屋にかかる木や倒木の処理など）に応える活動を継続中です。

今後の展望

6年間の取組で、満足できる成果が出たと自負しています。せっかく整備した里山なので、維持管理を継続していきたいと思いますが、最大の課題は経費の捻出です。無償ボランティアでは継続した活動が困難です。個人負担では限界があり、構成員の総意を得ることはできません。今後は本交付金以外の交付金や補助金を活用し、団体の運営基盤を安定させ、里山の維持管理を継続していきたい考えです。

!!大変だったこと!!
対象森林の所有者が多数おり(132筆48名、うち賛同者96筆34名)、活動に同意を得ることが大変でした。同意をえられなかったり、地目が「畑」であったりと、改めて所有山林あつたりと、改めて所有山林に対する意識の違いを感じました。

赤村	事業期間 平成 29 年度～令和元年度	活動タイプ		
大坂竹林等環境整備組合	里山	竹林	資源	
		★	★	

取組の背景・経緯

平成 20 年から森林ボランティアやチェーンソー間伐の講習に参加しており、森林整備への関心をもっていました。平成 27～28 年に交付金を活用し森林整備を行っている団体を見学したこと、また福岡県主催の竹林整備講習会に参加し、竹林整備の方法やタケノコの価格を学んだほか、赤村と京都地区の竹林の土壌が類似していることから、竹林 1 反で 30 万円のタケノコが生産できる可能性が見えてきたため、平成 29 年に本交付金へ申請するに至りました。



活動に参加した仲間（有志）・その関係性

技術・安全面の情報共有と活動の継続性を考慮し、少数人員でかつ作業量が同程度となるよう、作業担当を 4 名、事務担当を 1 名、計 5 名で構成しました。

取組の内容と成果

竹林整備では 1.4ha を整備し、約 14,000 本/ha あった竹を 3,000 本/ha まで伐採しました。伐採した竹は境界線上に柵として設置し、獣害の侵入を防止するようにしました。



整備前



整備後



伐倒竹でつくった竹柵



1 年目は手のごで伐倒していましたが、作業の効率化のため 2 年目以降はチェーンソーを整備しています。これにより 1 年目と比較し、作業時間が 2 時間短縮できました。

森林資源利用では雑木林 0.1ha にて雑木を伐採し、2 年目に薪割り機を導入し薪作りを開始しました。安全性向上の観点から、掛かり木処理にチルホールを用いています。



森林資源利用で薪作り

地域コミュニティへの貢献

活動を機に活動地近辺で雑木伐採、薪材利用の取組が始まりました。また本活動から派生し、同じ村内で「油須原竹林整備の会」が発足し、活動を始めています。当組織へも竹林整備中に勧誘した方が 3 名会員となっています。

今後の展望

交付金に頼らず竹林を維持管理していきます。整備した竹林にて毎年 700 本伐竹を行い、小口径・低竹化を目指します。令和 3 年度現在は交付金の申請は行っていませんが、継続して活動地にて竹林整備を行い、タケノコを生産しています。収穫したタケノコは業者に買い取ってもらい、売上金は会の活動資金に充てています。雑木林は竹林化し、林内でシイタケ・サカキを生産、販売することで活動の財政基盤としたいと計画しています。シイタケ栽培については現在、自宅や近所・友人へ配布しているところで、竹林内での栽培を試行中です。サカキ栽培については、朝倉市から定期的に採取に来ていますが、まだ樹木が若く本数も少ないため、100 本を目指し毎年植樹をして本数を増やしています。

今後は会員の高齢化に伴う後継者の確保が課題になると考えています。竹林所有者の多くは自身での維持管理を放棄しており、整備方法がわからない、整備の必要性を感じていない状況です。行政と連携し、竹林整備、里山再生の取組を促せたら…という想いです。



林内でのシイタケ、サカキ栽培

!! 大変だったこと !!
 写真や出納簿の整理など、事務作業が本当に大変でした。新規にこの事業に取り組もうと思われている方も、事務処理で取組をためられるようです…
 協議会もサポートします !!

福岡市	事業期間 平成 28 年度～	活動タイプ		
赤坂竹林整備組合	里山	竹林	資源	
		★	★	

取組の背景・経緯

早良区曲淵は、かつて林業と農業、製炭業を営んでいた集落でしたが、時代の変遷により住民は市街地へ働きに行き始めました。核家族の増加に伴い地区外に若者が移住したため、集落の人口は減少、農業技術も衰退しています。竹林においては、かつて 300 万円の収益を上げる農家もあったことから、荒廃した里山を整備し、タケノコ生産の山に再生させたい、また、地域住民と連携し加工販売することで、地域に持続可能な仕事を作りたいという思いから活動を始めました。

活動に参加した仲間（有志）・その関係性

森林所有者、林業従事者、有志の方と全 4 名で活動しています。

取組とその成果

タケノコ生産林を目指し、枯れ竹の処理、竹の伐採を行いました。伐採後の作業（伐倒竹の片づけ、軽トラの乗り入れ）を見越し、列状に皆伐しました。枯れ竹は焼却し（なかなか減りません…）、青竹はチップにし土壌改良材の原料として販売しています。竹のチップは地域の耕作放棄地の元肥に使い、ユズやへべすの栽培もしています。



活動に取り組むなかで、作業道の管理に手がかかること、枯れ竹が多く処理の手間がかかること、竹の売り先の確保が課題となりました。特に売り先については竹の利用に目途が立たなければ活動が終わりかねません。



竹林資源の利活用を確立することで、継続的な竹林作業が可能となるよう、出口対策に乗り出しました。竹資源の 6 次加工品を開発すべく新たに「バンブーさわらの郷合同会社」を立ち上げました。



地域コミュニティへの貢献

農家さんと一緒に竹チップの資源化研修会を実施しました。この研修会では竹山の整備の他、竹チップを導入した際、効果を数値化できるかなどさまざまなご意見をいただきました。

引き続き、地域の雇用創出につながるよう、竹林資源の商品開発に尽力してまいります。



竹チップの資源化研修会の様子

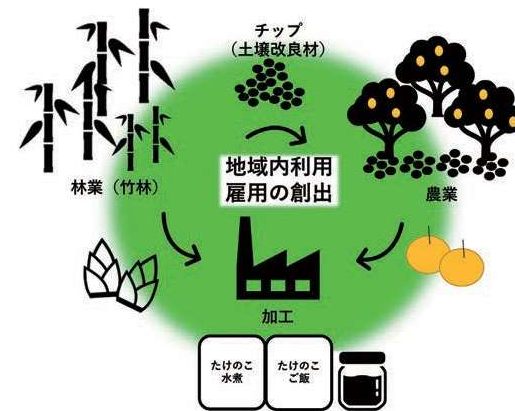
今後の展望

竹林資源の出口整備として、「赤坂竹林整備組合」で竹林整備を行い、そこから発生する竹林資源を「バンブーさわらの郷合同会社」で商品化する事業の流れを構築しています。これまで早良商工会にご指導いただき、2 年間かけて 6 次加工商品（飯場たけのご飯の素、飯場たけのご名脇役な水煮（右下写真））を開発してきました。令和 3 年 10 月に商品として形になったため、今後ネット販売を中心に販売していきたいと考えています。

10 年来、農業における土壌改良材を化学肥料から竹チップへ代替したいと取り組んできました。本格的に竹チップが農業用土壌改良材として商品化できれば、林業において地域資源の循環が可能となり、「地域の資源循環」という側面から農業に負荷価値が生まれると考えています。

今後も引き続き土壌改良材用のチップの技術を高め、農業分野でも竹林資源の出口を見出したいと考えています。

バンブーさわらの郷合同会社 HP <http://bamboosawara.jp>



!! 熱い思い !!
 私たちは大きな自然を先人たちから託されています。今まで培われてきた人の努力と技術を未来へつないでいくことが使命です。このようなことが実感できる活動に参加できたことに感謝。

糸島市	事業期間 平成 30 年度～	活動タイプ		
ながいと鎮竹林	里山	竹林	資源	
		★		

取組の背景・経緯

糸島市長糸校区は、糸島市の南側に位置し、校区北側は市街地に向う平地、南側は脊振山系を境に佐賀県と隣接している中山間地です。校区北川には西九州自動車道が通じており、福岡市へのアクセスは決して悪くありませんが、多くの地方自治体同様、人口減少・少子高齢化が進み、地域コミュニティの維持が課題となっています。地域住民の高齢化により、道普請等地域の出方への参加者の減少、また個人所有の山林の手入れが困難となり、里山への侵入竹が蔓延、竹林自体も荒廃が進んでいます。地元の区長会で、里山の荒廃・景観の悪化・山の生産性の低下が問題提起され、①荒廃竹林の改善・景観保全と②高齢者の働く場（生きがい）づくりを目的とし活動を始めました。

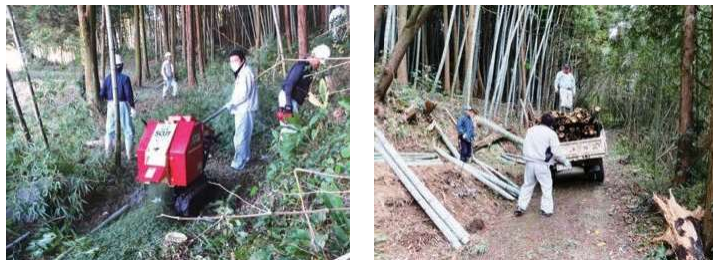


活動に参加した仲間（有志）・その関係性

区長会6名と地域の有志7名で活動しています。

取組とその成果

枯れ竹の処理、青竹の伐採を行いました。伐採した竹は竹粉碎機を整備し、竹林内で処理しました。



伐倒竹の処理

タケノコは収穫し、ゆでタケノコ、塩漬タケノコを製造し、飲食店や温泉保養施設で販売しました。

また「オール長糸のタケノコ料理」として、会の活動で生産したメンマを活用した料理講習会を開催しました。これらには調理師の免許を持つ女性を筆頭に女性陣も大活躍しています。メンマは好評で、リピーターも獲得しました。



塩漬け筍づくり



メンマづくりや料理講習会で女性陣も活躍

令和3年度（活動計画2期1年目）は、整備した竹林から搬出した竹で地域の保育園児と七夕飾りを制作しました。

地域コミュニティへの貢献

大きな変化ではありませんが、着実に地域の里山の整備が進み、地域の方が活躍する場や機会が生まれており、活動の推進に前向きに取り組んでいます。口コミで活動へ参加してくれる地域の方も増えてきました。

今後の展望

現時点では自己資金の確保が難しく自立が困難な状況なので、現在も実行しているゆでタケノコ、塩漬タケノコ、メンマの販売にも重点を置き、安定した財政基盤が確立できるよう、自立への道を模索中です。他の補助事業を活用し長糸校区にメンマの加工場を整備し、地域のタケノコを集約し加工する仕組みを構築することで、竹林整備と雇用の創出を推進したいと考えています。



伐り出した竹に保育園児が七夕飾り

！！熱い思い！！
長糸校区全体で循環型社会を目指し、みんなが元気な校区を目指します☆

糸島市	事業期間 平成 27 年度～令和 2 年度	活動タイプ		
竹やぶ掃除会	里山	竹林	資源	
	★	★		

取組の背景・経緯

集落周囲は、田畑が少なく戦前までは農業と林業で生計を立てていました。昭和 40 年代の高度経済成長から第 2 種兼業農家が増え、木材の価格の低下などから林業は衰退しました。孟宗竹林も一時期缶詰用タケノコが盛んに生産され、管理されてきましたが、現在は無管理竹林が多くなっています。活動の対象地は、集落内からは竹林等で周囲が見通せない（開放的でない）、周囲から見ると竹林や雑木林で住宅の全貌が見えず、「藪の中の集落」の雰囲気であったため、これを改善すべく取組を始めました。



活動に参加した仲間（有志）・その関係性

平成 27 年 4 月、自治会全体として取り組むことを決定し、65 歳以上の役員 6 名、評議員 13 名のほか、自治会員のうち働ける男性 9 人で構成されています。役員を中心に地権者・周辺地権者等 6～8 人で年に 7～8 回作業を行っています。

取組とその成果

事業の取り組み前に地権者会議を開催し、伐採割合の希望を聞き、伐採竹や木の処分は会に任せようことを確認してもらいました。竹や雑木を伐採・除去し、除去竹は、竹チップ製造会社に搬入・販売、除去木は 1m 程度に細切りし薪として現地で販売しました。



伐採竹の運搬、伐採竹・木の極積

また農産物直売所「やま里の市」と連携し、買い物客を対象に竹灯籠作りイベントを開催しました。（28 年・29 年度各 1 回実施、灯籠は「やま里の市」に展示後、イベント参加者が持ち帰り）



「やま里の市」にて灯籠作りイベントと作成した灯籠の展示



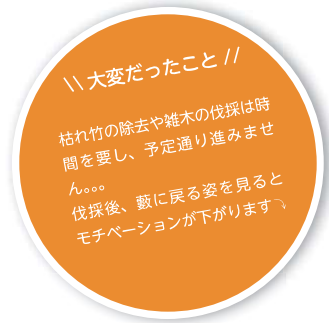
地域コミュニティへの貢献

竹林を整備したことが、これまで活用されていなかった竹林を所有者自らが整備を始めるきっかけとなりました。整備により秋葉社への参道ができたほか、集落が見通せるようになり、見通しが良くなったため、車の運転において交通安全にも寄与していると思います。

おばあちゃん達が「藪が切れたら明るく見通しもよくなって気持ち良くなあ」と言ってくれ、散歩の常連さんは、「不審車が停まらなくなって安心して歩けます」と喜んでくれました。（うれしい）

今後の展望

令和 3 年現在、会員の高齢化により実働できる者が 2 名となっています。これまでの活動地とは違う場所（秋葉社周囲）での作業をしたいと考えていましたが、竹林整備後、地権者で管理することの困難性が課題として浮かび上がりました。事業効率を上げるため、作業道の整備と伐採と集積ができる機械が必要と考えています。また、継続的に活動を実施するためには、次世代に引き継ぐために伐採後の姿を描くことも必要だと思っています。



大牟田市	事業期間 平成 28 年度～	活動タイプ		
倉永山林保全の会	里山	竹林	資源	
	★	★	★	

取組の背景・経緯

大牟田市で本事業に取り組んでいた「諏訪神社の森を守る会」の活動に参加したことがきっかけで、新たに組織を立ち上げることになりました。諏訪神社の森を守る会で整備した里山がきれいになり、隣接する里山の荒廃（薄暗い、汚い…）が気になり、今回の活動に至っています。

活動に参加した仲間（有志）・その関係

構成員は3名ですが、このほか地元のリタイヤ世代はもちろん、(土日に限られますが) 現役世代で協力してくれる仲間が20名ほどいます。

また、市内外の2～3校の高校生数十名がボランティア活動の一環として、毎年、年に数回活動に参加してくれています。



取組とその成果

荒廃竹林を整備し、現在は主にタケノコを収穫するための竹林整備を行っています。里山林保全では、作業効率化のため林内に作業道を敷設、間引きした伐採木は薪に加工し販売しています。

令和3年度は新たに創設されたサイドメニュー「関係・人口創出維持タイプ」も実施し「タケノコで300万～600万円の収入を得よう!!」という目標も掲げ始めた取組ですが、始めは交付金の範囲内で実行可能な竹林整備を考えていました。しかし実際に整備を始めると赤字が続くなど課題が発生しています。



整備前



整備後



シイタケのこま打ち



安全講習会

地域コミュニティへの貢献

私たちの活動に参加した地元の方々が、「自分でもタケノコを生産して収入を得よう」と、新たに竹林整備を始められています。この方々の活動に本交付金は活用されていませんが、地域の人の手で地域の里山林が整備される波及効果が生じています。

今後の展望

整備する竹林面積を拡大するため、調査を行っていきたいです。また、タケノコの販売収益で作業協力者と日帰り温泉旅行ができればと考えています。一昨年（令和元年）の収益は70万円、昨年は30～40万円でしたが、次期シーズンは100万円超えが目標です。今後も「タケノコで600万円」を目指して取組を進めていきます。

里山の整備、保全活動の推進に交付金やボランティアの協力だけを頼りにしていると、活動の継続がかなり難しくなります。今後5年、10年先を考えて行動できる仲間をつくること、また行動することが重要だと思います。



左上：整備後の竹林
右上：竹灯籠づくり
左右下：タケノコ掘り



〓ここが大事!!!
「行政との関係性を深める」
当会では市農林水産課と連絡を取り合い、情報交換や協力を得ることができています。
整備した竹林でタケノコ狩りを企画した際は、市の広報誌に募集広告を掲載していただきました。

大牟田市	事業期間 平成 26 年度～令和元年度	活動タイプ		
諏訪神社の森を守る会	里山	竹林	資源	
	★	★	★	

取組の背景・経緯

諏訪神社は 600 年の歴史をもち、青龍山の麓に位置しています。近年は社林への竹の侵入が著しく、参道から神社本殿が見えていませんでした。また屋間でも暗いため、参拝者に不安を与える状況でした。

竹の侵入により桜、紅葉なども枯れ、神社本来の森の姿が失われかけており、一刻も早く竹の侵入を阻止するための計画的な伐採・整備が望まれました。



活動に参加した仲間（有志）・その関係

諏訪神社の総代会、諏訪神社祭り保存会のメンバーが中心となり活動を実施しました。活動を進めるなかで、飛び入りで地元の方やメンバーの知り合いも作業に加わってくれました。

取組とその成果

神社参道の竹は皆伐により展望を開き、跡地には桜を植えました。また、スギ林は放置され暗かったため、下草刈と間伐を行い林内に光が届くよう整備しました。神社奥の竹林はかつて有明海の養殖海苔用の竹が取られていたそうですが、今では宮司さんが春にタケノコを掘る程度となっていたため、安定的にタケノコの採れる山へ整備を進めています。神社に隣接する竹林は大牟田の甘木山へ通じる登山道が整備させているものの、密集した竹で誰も通れないような状況だったため、人が通行できるよう伐竹しました。もう一方の隣接地はシイ林でしたが、手つかずでひょろ長いものが多かったため、間引きをし、下層の笹も刈払い、クスギを植栽しました。

神社の参道が明るくなったことにより、参拝者が増えました。光と風が通るようになり、地域の方も喜ばれています。



活動には毎回概ね 10 名程度が参加し、そのうち女性は常に 3～4 人、男性は 6 人程度で、多いときは 10 名参加しています。最初は作業に慣れない参加者も、回を重ねるごとに手慣れてきて、作業を分業化することにより、効率的に整備を進められるようになりました。

地域コミュニティへの貢献

活動に参加している地元の方から「山林作業は 1 人でやると怪しいけど、みんなでやると楽しいし疲れが出ない」という声が聞けました。この方は新たに活動組織を立ち上げ、本事業を活用し里山で活動をされています。

また、整備を進めていると会のメンバーではない地元の方が「自分も何かしようか」と自発的に活動に加わってくれました。里山に手を加え、整備の成果が見えてくると、自然に活動への協力者が現れてきました。



活動の様子（海外の方も参加）

今後の展望

交付金の活動が終了した現在（令和 3 年度）も下草刈や竹林整備は継続しており、収穫したタケノコを販売し、管理の費用に充てています。今後もこの活動を継続し、ゆくゆくは諏訪神社の森（管理地）全体を憩いの場、安らぎの場としたいと考えています。具体的には、桜、紅葉、紫陽花等を植樹し、季節毎に多くの方が訪れる場所にする計画です。整備したことにより参拝者は増えましたが、子供たちの姿が少ないように思います。自然の中で遊ぶ機会が減っていると言われる現代の子どもたちに、自然と触れ合える場所を提供したいという思いで、今後も森づくりに関わっていきたく考えています。



「大変だったこと!!」
活動の成果が見えるようになってからは参加者も増えましたが、活動を始める際の地元の含意形成が大変でした。また現役世代は平日の参加ができず、日程調整に悩みました。



**森林・山村多面的機能発揮対策
福岡県地域協議会**

連絡先 福岡市中央区天神3丁目10-25
Tel 092-712-2171

※この冊子は令和3年度 森林・山村多面的機能発揮対策交付金により作成しました。